



宮前中だより

さいたま市立宮前中学校
学校通信 No. 8
令和3年12月1日(水)

さいたま市西区宮前町1467-1 Tel 623-7381 e-mail: miyamae-j@saitama-city.ed.jp

『七五三』

校長 大木 克巳

今年も残り僅かとなりました。感染症のため暗い話題が多い年でしたが、11月号で取り上げた大谷選手が見事MVPを受賞しました。国民栄誉賞は時期がまだ早いと辞退したそうですが、明るいニュースに盛り上がりました。また、大谷選手と心臓病と闘った子どもとの交流の記事もありました。残念ながらそのお子さんは亡くなってしまいましたが、この件を契機に立ち上げられた募金のおかげで2人の子どもの命が救われたそうです。そんな折、中学生が起こした事件が世の中を騒然とさせました。一人の命ですが、それは決して一人だけの命ではありません。

11月6日に、浦和の調神社で孫の七五三のお参りをしてきました。孫は5歳の男の子と3歳の女の子です。孫の両親と両家の“ジジ・ババ”計6人で孫の成長をお祝いしてきました。七五三の由来は諸説あるようですが、平安時代頃から宮中で行われていた3つの儀式、3歳の「髪置き」、5歳の「袴着」、7歳の「帯解き」が基になっているそうです。現代に比べて医療の発達が発達が未熟で衛生面もよくなかった昔は、子どもの死亡率が高く「7歳までは神の子」として扱われ、7歳になって初人として一人前であると認められたそうです。それが、明治・大正期に「七五三」と呼ばれ、現在の形になったようです。医療が発達した今でも子どもが無事に成長することは大きな喜びです。私は孫たちに『ボス』と呼ばれています。(呼ばせています)他県に住む孫たちは1月に1回程度お泊りに来ます。子どもの成長は早く、色々なことができるようになり、できるようになったことを嬉しそうに見せてくれます。それが私の生甲斐になっています。

今回の殺傷事件の中学生双方にも親、兄弟、親戚がいるはずですが。みんな子どもたちの健やかな成長を願っています。何が2人の間にあったかは当事者同士でしかわかりませんが、命の重さはみんな分かるはずですが。

君の命は、君のものであります。また、君を見守るみんなのものでもあります。どうか短絡的な考えで、自らの命を絶ったり、他人の命を絶ったりすることは決してしないでください。

私は今、3年生徒の進路面談を行っています。その中で好きな言葉や座右の銘を尋ねる場面である生徒が「**人生死ぬこと以外は、かすり傷**」と答えてくれました。「何か失敗しても、嫌なことがあっても生きてさえいれば挽回のチャンスはある。死ぬことに比べればなんてことはない。」という意味でしょう。君の命、みんなの命を大切にしてほしい。

保護者、地域のみなさまへ

今年も一年大変お世話になりました。感染症の不安が残り以前のような学校生活には戻っていませんが、できることを最大限に行っていきたいと考えていますので引き続き、ご理解ご支援をお願いいたします。新年がみなさまにとって幸多き年になりますよう祈ります。

